

# 効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名			担当室
平成29年度	市単	市民総活躍を叶える”元気・交流”拠点整備事業			市民スポーツ室
事業実績額(円)		47,798,120			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	③生涯現役プロジェクト			
	基本的な方向	①健康なばりの推進/世代間交流の促進による地域の元気創造/支え合いの地域福祉の推進/「達成感」や「連帯感」を育む生涯スポーツの推進/多様な生涯学習機会の提供			
	具体的な施策	①「ともに生きる ともに創る 心ふれあう幸せのまち 名張」の実現			
事業期間		平成28年度～平成30年度			
事業の目的		<p>名張市は、フィールドホッケー（以下「ホッケー」という。）の振興によるまちづくりに注力すべく、平成28年度に独自で市民陸上競技場の芝生化の実施や、子どもを対象としたホッケー教室の開催などを行ってきました。</p> <p>平成29年4月には新たにホッケー協会を設立し、完成したフィールドでは、奈良県の強豪チームの天理大学と南都銀行のエキシビジョンマッチも計画しています。また、ほかに名古屋フラーテルホッケークラブや三重クラブ（鈴鹿市）など本市の周辺にはホッケーの有力チームが所在しており、今後こうした有力チームの公式大会や強化合宿を受け入れていくには、既に完了したフィールドの整備にくわえ、ミーティングルームの新設やロッカールームの機能向上などの環境整備が必要不可欠となります。</p> <p>今回の改修では、こうした環境を整えるべく当該競技場の観客席下の模様替えを行い、ミーティングや研修に利用可能な部屋の新設と、これにあわせたロッカールームやトイレの機能向上、さらにはフィールド脇の空スペースを利用してイートインやケータリング、グッズ販売等、大会やイベントに対応できる多目的スペースの新設を行います。その結果、出場選手や観戦客等、これまで見込むことのできなかった新たな誘客と地域経済の活性化、施設利用者や使用料収入の増加に大きく寄与し、現状と比較して、施設利用者及び使用料収入について約2倍の増加を見込みます。</p> <p>また、現在、地方創生推進交付金により進めている〔市民総活躍による『なばり元気のもとづくり』プロジェクト〕における健康づくり（ソフト事業）の取組の拠点施設として活用することで、より一層の利用向上と市民がいつまでも健康で活躍できる生涯現役のまちづくりを目指します。</p>			
重要業績評価指標 (KPI)	指標		基準値 (H29.3)	目標値 (H30.3)	実績値 (事業終了時)
	拠点施設の使用料収入		1,620千円	638千円	555千円
	拠点施設の利用者数		27,131人	12,869人	16,284人
	市外からの合宿等の受け入れ数		3件	5件	71件
平成29年度の取組概要		<p>・ミーティングルームの新設、ロッカールームやトイレ機能向上、さらには、大会やイベントに対応できるよう、フィールド脇の空スペースを利用して多目的スペースを新設し、新たな誘客と地域経済の活性化、また施設利用料の増加に繋がるよう整備を行いました。</p>			
外部有識者による効果検証	検証の時期	平成30年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設の整備については、ホッケー以外にも、サッカーやグランドゴルフなどの他の競技にも使用できることにメリットがある。</li> <li>・ホッケーはオリンピックの競技でもあり、競技人口が少ないことからオリンピックへの近道でもあるといわれているので、名張でも競技人口が増えて盛り上がっていけばよい。</li> <li>・施設整備をするにあたっては、市民ファーストであってほしい。</li> </ul>			
	結果の公表	平成30年11月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 （ 時期 : 平成30年11月予定 ）			
総合評価		<p>KPI指標の一つである「拠点施設の使用料収入」については、目標値に達しなかったものの、そのほかの指標については目標を大きく上回った。また、整備にあたっては、関係機関からの要望も反映するなど、より多くの地域住民が交流できる拠点となるよう努めることができ、地方創生に相当程度効果があったと評価する。今後は、名張市体育施設指定管理者とともに、施設を最大限活用し、より多くの地域住民の交流はもとより、市内外からの施設利用者の増加に繋げていこう、継続的に取り組む必要がある。</p>			
今後の方針	方針				
	理由				

## 効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名	担当室		
平成29年度	市単	市民総活躍を叶える”元気・交流”拠点整備事業	市民スポーツ室		
事業実績額(円)		300,000			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	①生涯現役プロジェクト			
	基本的な方向	①健康なばりの推進/世代間交流の促進による地域の元気創造/支えあいの地域福祉の推進/「達成感」や「連帯感」を育む生涯スポーツの推進/多様な生涯学習機会の提供			
	具体的な施策	①「ともに生き ともに創る 心ふれあう幸せのまち 名張」の実現			
事業期間		平成29年度～平成33年度			
事業の目的		(1)シニアスポーツ創設事業 60歳以上のシニアを対象に、年間を通して多種スポーツの体験講座を開催する。			
全事業期間における 本年の位置づけ					
重要業績評価 指標 (KPI)	指標		基準値(H29.3)	目標値(H30.3)	実績値(事業終了時)
	拠点施設の使用料収入		1,620千円	638千円	555千円
	拠点施設の利用者数		27,131人	12,869人	16,284人
	市外からの大会や合宿等の受け入れ数		3件	5件	71件
平成29年度の取組概要		<p>・60歳以上のシニアを対象に年間を通して多種スポーツの体験講座を開催し、高齢者が健康な生活を継続、維持するために地域のシニア世代のスポーツリーダーとして、27名の修了生を養成し、地域ごとに特色ある活動を行いながら、全体として健康寿命を延ばすことにつながる仕組みを構築することに寄与することができました。</p>			
外部有識者による 効果検証	検証の時期	平成30年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<p>・高齢者にとって長く住んでもらうとなると健康が維持できるように医療の充実が問題である。最先端の高度医療より総合診療所などの生活を支える医療が必要である。                      ・定年退職が60歳の時代から、70歳の時代になってくる。これから先、確実に退職の年齢が上がってくる中で、地域づくりに参加される年代も高齢化になり、体力的に無理になってくる。今後、地域づくりを活発にしていきたいに、どのように考えていくか。                      ・高齢者と子供たちが、一緒に地域づくり事業に参加するという良い循環ができてきている例もある。</p>			
	結果の公表	平成30年11月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 （ 時期 : 平成30年11月予定 ）			
総合評価		-			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			